
令和5年度 第1回周南市環境基本計画推進委員会 議事要旨

- 1 期日 令和5年10月5日(木) 午前10時から正午まで
- 2 場所 周南市徳山保健センター 3階 健康増進室1
- 3 出席者 委員(14名)、事務局(5名)、【委託業者】一般財団法人九州環境管理協会(3名)
- 4 議題
 - ・周南市環境基本計画の令和4年度実績について
 - ・第3次周南市環境基本計画の策定について
- 5 配付資料
 - ・配席図
 - ・委員名簿
 - ・資料1-1 周南市環境基本計画の令和4年度実績について
 - ・資料1-2 令和5年度版環境報告書(案)
 - ・資料2-1 第3次周南市環境基本計画の策定について
 - ・資料2-2 第3次周南市環境基本計画_市民アンケート調査票(案)
 - ・資料2-3 第3次周南市環境基本計画_事業所アンケート調査票(案)
- 6 内容

1 開会

- ・事務局より挨拶。
- ・委員の出席状況について、全委員20名のうち14名が出席しており、周南市環境基本計画推進委員会規則第3条で定める定足数の過半数に達していることから、令和5年度第1回周南市環境基本計画推進委員会が成立したことを事務局が報告。
- ・委員の自己紹介。時間の都合上、各委員の挨拶は省略。
- ・周南市環境基本計画推進委員会規則第2条第1項及び第2項に基づき委員長及び副委員長を選出するにあたり、委員からの自薦及び他薦はなし。事務局案として佐賀委員を委員長として提案したところ、他の委員から異議はなし。佐賀委員長を選出。
- ・佐賀委員長より挨拶。佐賀委員長から副委員長として今回の委員会は欠席しているが事前に就任の了承を得ている赤木委員を指名。他の委員から異議はなし。赤木副委員長を選出。

2 議事

- (1) 周南市環境基本計画の令和4年度実績【資料1-1】【資料1-2】
 - ・配付資料に基づき、事務局から説明。
 - ・委員からの質疑は特になし。

(2) 第3次周南市環境基本計画の策定について【資料 2-1】【資料 2-2】【資料 2-3】

・配布資料に基づき、事務局及び一般財団法人九州環境管理協会から説明。

・質疑応答

○ 委 員 : 委員会には初めて参加する。現行の環境基本計画は第2次計画であるが、第1次計画が策定されていたことを委員に就任するまで知らなかった。環境基本計画を市民にどれだけ知ってもらえるかが重要。市民の目線に立って計画を見ると、漢字や専門用語が多く、専門用語の補足説明があるものとなないものがある。市民の多くは、ある程度周南市の環境について知っているはずだが、計画として難しい内容を提示されると、自分たちは具体的に何をしたらよいか分からなくなってしまう。難しい内容には補足説明を設けるなど、色々な年代の市民がいることに配慮して第3次計画の策定作業にあたって欲しい。また、工場夜景に関して、ある環境の学習会では地球の夜の様子として衛星画像を示しているが、夜の地球は照明等のエネルギー使用で煌々と光っており、このようなエネルギー使用が本当に必要なのか指摘していた。照明等に使用するエネルギーを持続可能な再生可能エネルギーに転換していくことについて、事業者の方々は既に取り組を進めていることとは思うが、工場夜景を環境基本計画の目玉の1つとして取り上げる必要があるのか疑問に感じる。

● 事 務 局 : 計画の市民への周知は重要と考えている。全市民に計画を紙媒体で配布することは難しいため、市 Web ページへの掲載等を通じた周知や、第3次計画の施策として取組を展開していく中で計画についても周知していきたい。市民の目線に立った第3次計画の見せ方について、専門用語の補足説明やコラム等を設けて内容を分かりやすく示すべきなのか、それともあくまで計画として整然と内容を示すのか、本委員会でのご意見や様々な立場の市民のご意見を伺う機会を今後多く設けて検討していきたい。工場夜景は、市の観光資源として地域に貢献している特徴の1つと捉えている。第3次計画として脱炭素や地球温暖化防止に関する取組を記載する中、工場夜景は環境だけでなく経済など多面的な観点で記載することとしたい。

○ 委 員 長 : 市のCO₂排出の大半は事業活動に伴うものであり、事業者の方々は再生可能エネルギーへの転換に取り組んでいる。工場夜景について、環境だけではなく、経済など関係する事項を広く捉えることが重要。計画に記載される環境関連の専門用語について、自身の30年ほどの教鞭の経験を踏まえると、専門知識を有する人と有していない人の差が大きく広がっているように感じている。また、環境教育の対象の低年齢化も進んでいる。様々な情報を周知する上で、対象の年代に合わせた工夫が重要。計画の周知について、市 Web ページも活用することだが、SNS や市の広報誌など、様々なメディアを活用して欲しい。市民アンケート調査では、対象の年齢や居住地域などの要素からクロス集計が行われると思われる。このような結果が第3次計画に反映されると思っている。

- 委 員 : 工場夜景に関する記載がある資料 2-1 の 3 頁について、写真の横に空白スペースがあるため、ここに補足事項として、照明等のエネルギー消費に伴う CO₂ 排出の面だけでなく、観光や産業などの面も踏まえて第 3 次計画において工場夜景を取り上げている旨を記載してはどうか。また、市民アンケート調査について、現行計画策定時にも同様の調査を行ったものと理解している。今回の調査では細かく居住地域の区分を設けているが、対象の市民数が少ないのではないかと。対象数は多ければ良いということでもなく、調査の手間やコストも踏まえて検討すべきであるが、前回調査の回答率なども踏まえて今回調査の対象数の設定を行ったのか。対象数の根拠を示して欲しい。市民アンケート調査の対象数は人口を基に検討されたものと想像するが、事業所アンケート調査の対象事業種や事業形態、対象数はどのように設定したのか。
- 事 務 局 : 資料 2-1 はあくまで本委員会における資料として、本市の特徴等を現行計画の記載も含めて紹介する趣旨で作成したものであり、第 3 次計画に記載する事項としては不足する点もある。第 3 次計画で工場夜景を取り上げる場合には、計画をご覧になる市民が市の工場夜景に対する考え方を理解しやすい構成にしたいと考える。アンケート調査について、より多くの意見を集めることが望ましいと考えるが、調査に係る予算の制約がある中で、統計学の考え方を基に対象数を選定した。
- 九州環境管理協会 : アンケート調査では信頼性を確保した結果を得るために必要な統計学上の許容誤差や信頼水準等を設定して対象数を選定している。具体的には、市民アンケート調査において、母数は市民の数であるが、一般的な調査では許容誤差±5%とするところをより厳しい3%に設定して信頼性を高め、また、信頼水準は95%として対象数を2,650人としている。事業所アンケート調査の対象についても同様の考え方で対象企業を1,900社としている。
- 委 員 長 : 市民アンケート調査の対象について、今回調査では新たに小学生の低学年を対象としている。これは教育関係者から将来を見越して対象とした方が良いとの提案をいただいたことを反映している。前回調査では対象外であったため、前回調査との結果の比較はできないものの、このような背景を踏まえて対象に設定している。
- 事 務 局 : 委員長のご発言について訂正させていただきたい。前回調査は小学生も対象にしていたが、今回調査は13歳(中学生)以上を対象とする予定としている。
- 委 員 : 前回調査から対象年齢を変更した理由は何か。
- 事 務 局 : 小学生を対象とした場合、全ての環境関係事項を理解することが難しく、例えば「ごみを綺麗にしよう」など、回答の偏りが大きくなることが予想される。このため、環境関連事項の理解が小学生よりも進んでいる中学生以上を対象としている。

- 委員長 : アンケート調査に回答する上で、例えば「環境保全」とは何かなど、小学生にとって回答することが難しい点多いかもしれない。他に事業所アンケート調査等について、委員の中で事業者の立場から意見などはないか。
- 委員 : 事業者の立場として、皆さんが周南市をイメージする際に工場夜景を思い浮かべることは、大変ありがたいことと思っている。一方で、工場は石炭を燃やして CO₂ を多く排出している状況であり、CO₂ 排出を削減するための取組を一生懸命に進めている。この取組については、1つの企業だけでは中々推進することは難しく、行政や市民の皆さんと意見交換しながら推進していこうと考えている。例えば、港やパイプラインを用いた水素エネルギーの利活用による CO₂ 排出削減などである。様々な取組を行っていく中で、皆さんとの連携が強みとして活かされていく形になることが理想的と考えている。今後、工場夜景の在り方も変わっていくとは思いますが、皆さんと足並みを揃えて、次期環境基本計画策定に参画して取組を進めていきたいと考えている。
- 委員長 : CO₂ 削減の社会的動向を受けて企業努力をされており、それが地域連携として1つの強みになっていくというコメントをいただいた。
- 委員 : 市民アンケート調査について、回答方法の選択肢に Web 回答を設けていない理由は何か。
- 事務局 : 当初は Web 回答も回答方法の1つとして検討していたが、回答の際の個人情報取り扱いが懸念されたことから、回答方法は郵便返送に限定した。他の自治体でも同様に Web 回答による個人情報の外部流出について懸念しているようで、実際に外部流出した事例は聞いていないものの、懸念としては残ったため、今回は Web 回答を設定しない判断とした。
- 委員 : 自分にこのアンケート調査票が届いたことを想像すると、子どもの世話等で忙しい中、書類が郵送されてきても対応が後回しになり、他の書類が積み重なって、郵便返送を忘れてしまうと思う。もしくは、そもそも回答しないということも考えられる。回答方法の選択肢の1つとして Web 回答を設けた方が回答率は上がると思うが、それでも Web 回答は設けないのか。
- 事務局 : ご意見のとおり Web 回答を設けた方が回答に手間がかからず回答率は上がるのが予想される。そもそも Web 回答において個人情報が紐づくことは本来ないが、Web 利用に慣れていない方の中には回答者名が特定されるのではないかと懸念しているとの意見があった。また、郵送にて配布する調査票には ID (識別番号) を付与していないため、Web 回答の場合には個人が複数回、回答することが可能となり、複数回の回答を防ぐために ID を付与してしまうと、Web 回答において個人情報が紐づいてしまう。以上の理由から、市民アンケート調査では Web 回答を設けないこととした。

- 委 員 : 市民アンケート調査の調査票の5頁の②「あなたが今後参加したい環境保全活動は次のうちどれですか。それぞれの項目で該当するもの（積極的に参加したい、時間が空いていれば参加したい、あまり参加したいと思わない、参加したくない）に1つだけ○をつけてください。」について、項目14では「その他」の記載とともに回答欄として括弧が記載されているが、「その他」ではなく「その他参加したいこと」という記載にした方が回答すべき内容が分かりやすいと考える。また、7頁の間5「周南市内で、未来に残したい自然環境や景観・史跡、場所などがありますか。下の表の『該当する場所』と『選んだ理由』に記入してください。」について、例えば自然環境であれば長田海岸や永源山公園、景観であれば黒岩峡など、具体的な名称を回答して欲しい、という説明がないと必要な回答が得られないと考える。調査票を読み込んで回答する人ばかりではないと思うので、少し言葉を加えることで、より設問に即した回答が得られると思う。9頁のコラム「気候変動への適応とは？」で掲載している適応の具体的な対策例に係る図について、このような図が掲載されていないと分かりにくいと思うものの、図が見え辛い。カラー印刷であれば見やすいのかもしれないが、白黒印刷で調査票を送付するのであれば、高齢者などにとって見え辛いのではないかと感じる。
- 委 員 長 : 語句をもう少し分かりやすくすることや、図の中の文字が小さくなっていることについて、工夫して修正するということでよいか。
- 九州環境管理協会 : ご指摘のとおりと考え、言葉の補足等を検討する。図についても、文字サイズの大きさなどを検討する。
- 委 員 長 : 他に委員からご意見などはあるか。
- 委 員 : 委員会の開催日程をもう少し早く連絡してもらえると有難い。一般的に、委員会の日程は開催の1か月前には連絡があるものとする。今回の委員会を欠席している委員の欠席理由は分からないが、もう少し早い時期に連絡があったら、出席率が上がるのではないかと思う。また、委員会資料について、10/2（月）に仕事を終えて夜帰ってポストを開けたら投函されていた。委員会の開催までの2～3日で、これだけ大量の資料を読んで委員会にて意見が欲しいといわれても対応は難しいのではないかと思う。資料は9月下旬に送付とされていたが、現在は土曜日に郵便の対応がないため自宅に届いたのが10/2（月）になったのだと思われる。もう少し早く委員会資料を受け取れていたら、他の委員も含めてもう少し色々な意見があがったのではないかと思う。
- 事 務 局 : 大変申し訳ない。委員会の開催日程の通知及び委員会資料の送付について、今後はなるべく早めに対応していきたい。
- 委 員 : 資料2-1「第3次周南市環境基本計画の策定について」の10頁の図8「アンケート調査結果の集計における地域分類」について、周南市のある地域を「都心部」とする表現は、市として統一的に用いている表現なのか。都心部と表現することは、少し違和感がある。市として一般的に用いて

いる表現であるならば特に修正する必要はない。

- 事務局 : この地域分類と名称は市として定めている訳ではなく、本アンケート調査における設定である。
- 委員長 : 地域分類として設定する名称は住民等に配慮した方が良いと考える。
- 事務局 : ご指摘のとおりと考える。「都心部」ではなく「都市部」にするなど、アンケート調査で設定する地域分類の名称は検討する。
- 委員長 : 他に委員からご意見などはあるか。
- 原委員 : 委員の皆さんから様々な意見があがっていたが、今回の委員会資料に関して違和感はない。市として独特な文言や表現が用いられることは、ある程度仕方がないことと個人的には思っており、その内容が市民の皆さんに理解できるものであれば、文言や表現は特に議論すべきことではないと思っている。本委員会であがった他の意見についても、自分なりの意見を申し上げる。工場夜景について、環境産業を市が求めている訳ではないことはよく理解している。株式会社トクヤマや東ソー株式会社は自家発電設備を持っていて、自分たちでエネルギーを作って自分たちで消費して製品を作っていることを分かっている市民も沢山いる。しかし、周南市環境基本計画として、このような状況を説明していないために、状況を知らない人は工場が光を放出して、自然にとって悪いのではないかと思う人もいると思う。第3次計画では一言、そういう環境に優しいことを私たち企業がやっています、という旨のコメントを追加すれば、工場夜景を取り上げることは全く問題ないことだと思っている。基本的に、山口県はSDGsやDXを推進しているので、市民アンケート調査でWeb回答を設けないことに関して、ID付与の関係や個人情報の懸念はあるかもしれないが、何となく時代に逆行している感じがする。本委員会の膨大な資料についても、紙媒体で用意されているが、世の中はペーパーレスを進めている。この膨大な紙を抱えて自宅に持ち帰ること自体が、昭和初期の人間の感覚で取り組んでいるように感じる。この辺りの感覚を変えていった方がいいのではないかと思う。市民アンケート調査の対象年齢に関して、小学生、中学生、高校生など、今の学生たちの教育方針は、私たちが幼少の頃から全く変わっている。自身が教育に少し携わっているため感じていることだが、アンケート調査について、小学生は表現力等が未熟かもしれないが、学校教育では教材としてSDGsをベースにしており、例えば英語の授業などでも取り上げている。このため、子どもたちの環境に関する理解というのは、我々の幼少の頃よりもかなり進んでいると認識している。基本的に市民アンケート調査を行う際には、分かりやすい表現で、見やすい表現にすることが求められるが、ある程度環境に関する理解が進んでおり、環境教育が浸透していることをベースとして、市民に一層の理解を求める形で調査票を作成してもらえればよいのではないかと思っている。

- 委員長：ペーパーレスについて、開催前に委員会資料はパワーポイント等を用いて説明するのか市に確認したが、市として本委員会に参加する人数が集まることのできる大規模な会議室は本会場しか空いていなかったという事情があり、今回は紙媒体での資料提供・説明になったのだと思う。
- 事務局：委員長のご発言のとおりである。ディスプレイやスクリーンにて資料説明が可能な設備が整っている会場も市の施設の中にはあるため、今後は極力ペーパーレスを意識しながら工夫して対応していきたい。

3 閉会

- ・事務局より挨拶。
- ・委員長より「今回の委員会は委員への資料配布が遅れ気味であったため、本委員会で意見を十分にあげられなかったという委員の方は、ぜひ事務局の方に電話等で連絡して欲しい」と案内。